



たてのとしこ 館野 敏子 さん（関本上）

名残の桜の木は毎年花を咲かせます。それを見て地元の人に三所線を思い出してもらえたらうれしいです。

今は無き鉄の道

三所線の面影を追う

かつて関城のまちに、蒸気機関車が走っていたことをみなさんはご存知でしょうか。今は田畑や梨畑に姿を変え、その名残はごくわずかです。今回は、残された資料も数少ない幻の「三所線」取材しました。

三所線の成り立ち

三所線は、大正12年に鬼怒川砂利（資）が敷設した、現在の関東鉄道常総線大田郷駅から鬼怒川東岸の三所（関本分中）を走る砂利運搬専用線です。昭和2年には常総鉄道（株）に買収され「常総筑波鉄道鬼怒川支線」となりました。その後「三所駅」「常総関本駅」が新設され、運賃を制定して客車の運行も始まりま



鬼怒川砂利合資会社第2採取場と蒸気機関車
出典：茨城県関城町合併40周年記念町勢要覧



しかし戦後、関本町内の道路が整備されて路線バスが開通すると、客車の砂利が枯渇したこともあり、昭和32年に常総関本―三所間が廃止されました。昭和39年には全線廃止となり、砂利運搬で一時代を築いた三所線は40年の歴史に幕を閉じました。

幼い日の記憶 甦る思い出

常総関本駅があった三所地区のなかで、中川郁夫さん、小幡誠さん、稲見豊さんが、当時について次のように話してくれました。

「三所駅から、砂利を採る河原に向かって、二股に線路が伸びていた。砂利は滑車のついた船で川底をすくい、小舟で岸まで運びスコップで貨車に積み込んだ。当時は人夫が手積みで行っていたので、大変だったと思う。客車は下館に通う学生が多く利用し、発車時間に遅れてくる学生を待つこともあった」と中川さん。

「三所の砂利は高品質で需要が多かった。土手の急勾配を登る蒸気機関車は、シュッポシュッポと煙をはき、ゆっくりと、まるで息を切らせたように懸命に登っているようだった」と小幡さん。

「農産物を運ぶ貨車もあり、サツマイモやスイカなどを運んでいた。列車から機関



左から稲見さん、中川さん、小幡さん

士がスイカを放り投げてくれて、子どもの頃食べた記憶がある。廃線後、常総関本駅跡に貨車が1両残っていて子どもたちの遊び場となっていた。線路跡は、道路として整備されてとても便利になった」と稲見さん。3人とも当時の思い出が鮮明に目に浮かんでいるようでした。

取材を終えて

三所線を知るみなさんは、目を輝かせて次々と思い出を話してくれました。それを見て、三所線が地元で親しまれていたことが、とてもよく分かりました。

かつての常総関本駅には、桜の木が数本ありました。そのうちの一本が、現在もひっそりと花を咲かせています。今年で廃線から58年。年月を経て、桜の幹には大きな空洞ができてしまいましたが、根本から新芽が出て、今はもう立派に花を咲かせています。新芽とともに三所線の思い出が後世に受け継がれることを強く願っています。



常総関本駅にあった桜の木（左が新芽）